

事例 シマフクロウの生息地保全と事業の両立 ～(公財)日本野鳥の会との協働

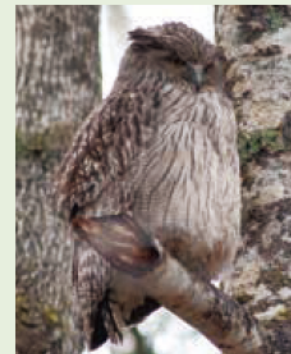
日本製紙(株)は日本野鳥の会と、2010年に野鳥保護に関する協定を締結し、北海道の社有林のうち約126ヘクタールをシマフクロウの保護区に指定しました。この保護区内には3つがいのシマフクロウの生息が確認されています。

また、2015年5月には北海道の社有林におけるシマフクロウの生息地の保全と事業の両立に関する覚書*を締結しました。目的意識を共有した相互信頼のもと、

協働での調査をした上で保護区は設置せず、生息地・繁殖環境を保全しつつ木材生産を続ける施業の方法と時期の基準を明文化しています。さらに、2020年には北海道の社有林内に人工巣箱を複数設置しシマフクロウの繁殖を助ける活動を、日本野鳥の会と協働で行います。

※ 国連生物多様性の10年日本委員会の「生物多様性アクション大賞 2015」に入賞しました。

実施年度	調査内容
2010	シマフクロウのすみかとなり得る巨木の調査
2011	鳥類生息状況調査
2012	オジロワシやオオワシのねぐら調査、夜行性鳥類音声調査
2013	哺乳類、シマフクロウの生息状況調査
2014	シマフクロウの行動圏調査
2015ー	シマフクロウの生息状況調査、鳥類生息状況調査



提供:(公財)日本野鳥の会

■ シマフクロウ

全長70～80cm、体重3～4.5kg、翼を広げると180cmにもなる世界最大級のフクロウです。かつて日本では、北海道全域に1,000羽以上が生息していましたが、現在は道東部を中心に約70つがい、160羽が確認されるのみになりました。1971年に国の天然記念物に指定され、環境省のレッドリストで絶滅危惧IA類(CR)に指定されています。